

整理番号	30-1	事務事業名	シルバー人材センター 運営費補助事業		作成部署	経済部商業労働課	電話	内線859
事務区分	自治事務	法定受託事務	部長職名	池上俊廣	課長職名	野呂一司	作成日	平成17年6月
事務事業開始年度	S62	根拠法令等	高齢者等の雇用の安定等に関する法律					
〃 終了予定年度								
事務事業開始のきっかけ(導入当初の目的等)	シルバー人材センターの健全な発展を図ると共に定年退職者その他の高齢者の能力の積極的な活用を促進することにより高齢者の福祉の増進に資することを目的としている。							

1 計画(プラン)

上位施策との関連(総合計画での位置付け)	章	力強い産業活動が展開されるまち	(第6章)
	節	労働環境	(第4節)
	施策	雇用の促進	(第1施策)
目的 (ここから成果指標を導きます)	対象 (誰、又は何を)	北広島市シルバー人材センター(平成16年度末会員数 612名)	
	意図 (何をねらっているのか、対象をどのような状態にしたいのか)	北広島市シルバー人材センターに対し、運営費等の支援を行い、高齢者の社会参加を促進し高齢者の就業機会の拡大を図る。	
手段 (ここから活動指標を導きます)	市が行った(行う)事務事業の具体的な実施内容(団体補助等の場合はその補助金による団体の活動内容を記載)	16年度まで	シルバー人材センターの活動 ・受注件数 2,776件 契約額 216,516千円 ・研修活動23講座62日開催 ・花苗育成・販売
		17年度	事業内容は前年と同様に実施する。

2 実施(ドウ)

【事業費の推移】

(単位:千円)

区 分		15年度(決算)	16年度(決算)	17年度(予算)	18年度(予定)
直接事業費	国支出金				
	道支出金				
	地方債				
	その他特財				
	一般財源	11,400	10,934	10,169	10,169
	合計	11,400	10,934	10,169	10,169
人件費 (概算)	人数(年間)	0.02	0.02	0.02	0.02
	1人当り年間平均人件費	9,000	9,000	9,000	9,000
	= ×	180	180	180	180
総事業費 +		11,580	11,114	10,349	10,349

【事務事業を評価する指標(ものさし)】

指 標	指 標(算式)	指 標 値			
		15年度	16年度	17年度(目標)	18年度(目標)
活動指標 (事務事業の活動量や実績)	会員数	604人	612人	640人	640人
	就業延人数	46,272人	49,060人	50,000人	50,000人
	会員研修開催数	62回	62回	65回	65回
	受注件数	2,788件	2,776件	3,000件	3,000件
成果指標 (目的の達成度を測るものさし)	会員従事者数	476人	528人		
	会員1人当り就業日数	76日	80日		
	研修会参加者数	1,105人	1,160人		
	契約金額	212,688千円	216,516千円		
効率指標 (主要活動単位当たりコスト)	会員1人当たり補助金	18,874円	17,866円	15,889円	15,889円

3 評価(チェック)と改善(アクション)

事務事業を取り巻く社会環境の変化や今後の予測・他市町村の動向等	シルバー人材センターについては、団塊の世代が高齢期に入ってくることから、加入者が増加して益々必要性が高まってくるものと思われる。
---------------------------------	--

【妥当性の評価と改善の方法等】

項目	判定	判定の説明や課題	改善の方法
行政関与の妥当性 【市が実施すべき事務事業ですか。市民・企業等での実施可能性はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	国からの運営助成金については、市町村からの補助が前提となっている。	
目的の妥当性 【社会経済情勢や市民ニーズの変化などから、設定した対象や意図は妥当ですか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	高齢者の雇用機会の拡大を進めることにより、社会参加を図り、生きがいづくり等、高齢者福祉に寄与している。	
手段の妥当性 【現在の手段は適切ですか。もっと効率的で有効な手法はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	高齢者の就業対策や福祉の増進のため、シルバー人材センターを設立し運営助成を行うことは、妥当であると考えられる。	
受益者負担の妥当性 【受益者負担の適正化の余地はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入) 該当しない		

【有効性と効率性の評価と改善の方法】

項目	判定	判定の説明や課題	改善の方法
有効性の評価 【意図した成果は上がっていますか】	十分成果が上がっている 概ね成果が上がっている あまり成果が上がっていない 成果が上がっていない	現在の社会環境から、新規業務の開拓や独自事業の取組も行っており、高齢者の就業、福祉の増進が図られている。	
効率性の評価 【手法は効率的ですか。コスト削減の方法はありませんか】	十分効率的 概ね効率的 やや非効率 かなり非効率	ここ3年連続補助金が削減されているが、自主財源等を確保しながら活動・運営方法等については概ね効率的に運営されている。	

【事務事業担当部局内優先度】

部局で所管するすべての事務事業の中で、この事務事業の位置づけはどの程度ですか

A B C

4 総合判定と今後の方向性

【1次評価】	判定	今後の方向性や改善方法など
事務事業担当部局の総合判定 【上記3の評価と改善を踏まえ、今後の方向性についての総合判定と改善方法を記入】	拡大・重点化する 現状のまま継続する 見直しの上で継続する 統合する(検討含む) 縮小する(検討含む) 廃止・休止する(検討含む) 終了	高齢化が進む中で、高齢者の臨時的、短期的な仕事を組織的に提供して高齢者の生きがいを図っていくためには、シルバー人材センターの活動は今後とも必要である。
【2次評価】	判定	今後の方向性等
行財政構造改革推進本部の総合判定	拡大・重点化する 現状のまま継続する 見直しの上で継続する 統合する(検討含む) 縮小する(検討含む) 廃止・休止する(検討含む) 終了	団塊の世代が退職を迎える2007年問題も含めて、今後も高齢者に就業機会を提供し、高齢者の生きがいづくりを図っていく本団体の活動は有効であり、シルバー人材センターへの補助については、今後も継続する。

付 表

補助金・交付金 交付先団体等の状況説明書

整理番号	30-1
------	------

【交付先団体等の概要】

補助金・交付金名	シルバー人材センター運営費補助金		
交付先の名称及び代表者名	北広島市シルバー人材センター 理事長 小林 三夫	設立年	昭和62年
構成員(団体)数	612名 (17年3月末現在)		
交付先団体等の活動目的	シルバー人材センターの健全な発展を図ると共に、定年退職者その他の高年齢退職者の能力の積極的な活用を促進することにより、高年齢者の福祉の増進に資することを目的としている。		
交付先団体等の活動内容	シルバー人材センター事業の充実のため、将来を見据えた就業機会の拡大と受注件数の増加を目指した取組を行っている。 就業機会の確保 就業研修会 普及啓発事業		
事務局の状況(16年度)	補助団体にある	市役所にある	
補助金等の充当状況(16年度)	運営費のみに充当	事業費のみに充当	運営費・事業費の双方に充当

【交付先団体等の決算・予算の状況】

(単位:千円)

区 分		15年度(決算)	16年度(決算)	17年度(予算)
収 入	本市補助・交付金の額(A)	11,400	10,934	10,169
	連合会補助金	11,400	10,934	10,169
	会費	967	950	992
	事業収入	212,688	216,516	210,601
	その他	14,610	13,131	12,794
	繰越金	5,817	5,479	2,628
	収 入 合 計(B)	256,882	257,944	247,353
支 出	事業費	209,401	215,622	209,930
	管理費	27,153	27,047	27,754
	その他	14,849	12,647	9,669
	支 出 合 計(C)	251,403	255,316	247,353
繰越金	収入(B) - 支出(C)	5,479	2,628	0
全体支出に対する本市補助・交付金の割合(A)÷(C)		5 %	4 %	4 %
補助・交付金の対象経費(項目)		管理費	管理費	管理費
補助・交付金の対象経費(金額)(D)		27,153	27,047	27,754
対象経費に対する補助・交付金の割合(A)÷(D)		42 %	40 %	37 %
補助・交付金の算出根拠	高年齢者就業機会確保事業費補助金の交付基準に基づく補助金			